

ずいそう

佐渡にこいちゃ

石山 剛



トキが飛び交う自然豊かな島、佐渡。私の大好きな島、佐渡島。

「佐渡においでよ」を佐渡弁で言うと「佐渡にこいちゃ」となります。

私は今から6年前に4年間、新潟県の佐渡島に単身赴任することとなりました。新潟県出身でありながら私は、佐渡島に一度も訪れたことはなく、テレビや雑誌で得た、わずかな知識しかありませんでした。

少しの不安と、まだ見たことも、ふれたこともない、知らない世界への興味と、期待に胸をふくらませ、4月1日に新潟港からジェットフォイルで佐渡に渡り降り立ったのです。

佐渡市両津にある会社へと出向き挨拶をすると、早速お付き合いのある業者さんに挨拶に伺うこととなり、私ともう一人と2人で挨拶に伺うこととなりました。

ちょうどその日は挨拶に伺った業者さんの地区のお祭りで、伺うとお祭りの宴会でにぎわっていました。私もその宴に参加することとなり、初めての私を、佐渡の人達から歓迎していただき、お祭りの輪の中にすぐに溶け込むことができました。佐渡、初日にして大変良い経験をさせていただきました。

佐渡のお祭りは地区ごとに無病息災、五穀豊穡を願い行われ、鬼太鼓によって一軒一軒厄除けをするのですが、各地区で鬼太鼓のやり方が少しずつ違って佐渡の子供たちが伝統を受け継ぎ、脈々と代々伝え続けられてきたものなのです。春になると佐渡島のあちらこちらでお祭りの太鼓の音が聞こえてきます。

佐渡には他に色々な伝統芸能が島民によって受け継がれています。

代表するものに能があります。歴史の教科書にも出てくる世阿弥は能楽の大成者として知られていますが、世阿弥は1434年に流刑として佐渡（当時の佐渡国）に流されました。この時代、佐渡は佐渡金山として栄えて、江戸時代における江戸幕府の直轄地である天領地として重要な場所としてみなされていました。そこに世阿弥と共に能の文化が入ってくることになり、佐渡の能は神社に奉納する「神事能」として独自の進化を遂げ、江戸時代からは大衆の娯楽として浸透しました。一番多いときは200もの能舞台があったと言われていますが、現在も

30以上の能舞台が残っていて、日本国内の3分の1の能舞台が佐渡にあるといわれています。能楽堂や神社、個人が所有するものから至る所に能舞台があります。能の舞手から笛、太鼓、鼓と全て佐渡の島の人達が行います。

特に私が好きなのは薪能と言って、神社に造られている能舞台で、薪によるかがり火の中で舞われる幻想的な能は、何とも言えない厳かで神秘さを感じさせるものです。

他に佐渡には説教人形、文弥人形、のろま人形と3種類の人形芝居があります。いずれも一人で一体の人形を操る一人使いで古浄瑠璃形式をもとに独自の改良が加えられ、すべて「佐渡の人形芝居」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。江戸中期から金山でにぎわっていた佐渡では、寺社などの祭りで人形芝居が行われていたもので、それがいまでも佐渡の島民に受け継がれているものです。

その他、各地区で行われている春駒（はりごま）、つぶろさし、花笠踊りなど多くの郷土芸能があります。いずれも職業としているのではなく、普通に仕事をしている佐渡の人達によって伝え続けられてきていることが本当にすごいことだと思います。

そして佐渡には神社仏閣が多く存在します。佐渡国一宮として皆さんが参拝する渡津神社、日蓮宗の寺院で五重塔がすばらしい妙宣寺、大和の初瀬（はせの長谷寺）を模して築かれた言われている長谷寺（ちょうこくじ）、鎌倉時代、1271年に佐渡に流された日蓮上



写真—1

人が2年半の流人生活をおくった根本寺（こんぼんじ）、佐渡最古の寺である佐渡国分寺、京都の清水寺に容易に参拝できない事を嘆き808年に京都の清水寺を模して建立した清水寺（せいすいじ）、真言宗智山派の寺院で真言宗の開祖、空海の開山という伝承をもつ蓮華峰寺（れんげぶじ）などまだまだ神社、お寺があり佐渡八十八ヶ所霊場めぐりも好きな方にとっては大変楽しい観光スポットだと思います。

そして佐渡といえば自然です。約300万年前から続く地殻変動で生まれた佐渡島は尖閣湾や小木半島に代表される美しい景観を至る所でみることができ自然風景がまるで大地のテーマパークであり、日本ジオパークに認定されています。寒暖両系の植物境界線である北緯38度線が島の中央を通過しているため、1,700種近い南北両系の植物が自生しています。本州側では2,000メートル級の標高でないと見ることができない山野草の群生が1,000メートル以下の標高でも見ることができ初夏の5月、6月には多くのトレッキングを楽しむ人でにぎわいます。また、この時期には濃い黄色の花を咲かすトビシマカンゾウが佐渡北部の大野亀に咲き誇り大変きれいで背景となる日本海とのコントラストは絶妙です。標高900m付近の石名天然杉の周遊コースではおよそ650mの遊歩道沿いに、公募



写真—2



写真—3



写真—4

で命名された「象牙杉」「羽衣杉」などの巨木が強風と霧にもまれ奇抜な形となったもので樹齢300年を超えるものもあります。

最後は何と言っても、佐渡島の食について書かなければなりません。まずは米です。新潟県は皆さんがご存じの通り米どころ新潟として、魚沼のコシヒカリなど有名ですが、私は、その中でも佐渡のコシヒカリは格別だと思っています。旅館に泊まり朝食で食べたご飯があまりにも美味しく、若くもないのに3杯もおかわりしたほどです。大佐渡山脈、小佐渡山脈がそびえ国仲平野が広がる佐渡島は、山脈からのきれいな水と、多くの生物を育む自然豊かな大地で育てられた米だからこそ美味しいのだと思います。周りを海に囲まれた温暖な気候で育つ果物も多く、大変美味しいです。特に有名なのが「おけさ柿」です、種がなく食べやすく、とろけるような舌触りが特徴で、ビタミンCをたっぷり含んでいます。そして西洋梨の貴婦人とよばれている「ルレクチェ」その他、リンゴ、イチジク、ブドウ、イチゴなど本当に豊富な果物があります。ディナーとなれば佐渡牛です。佐渡牛、佐渡和牛の定義は、1. 佐渡生まれであること。2. 佐渡育ちであること。3. 佐渡で収集したいなわらを飼料とした安全、安心の飼育であること。この3つがそろって佐渡牛となるのです。全国の和牛オリンピックで佐渡の牛が数多く入賞しています。海洋性気候の島特有のミネラル豊富な芝草を食べて育った佐渡牛のステーキは最高です。最後に周りをすべて日本海に囲まれた佐渡島の海の幸は、今更言うまでもありません。日本海の荒波で育った、南蛮エビ、ズワイガニ、イカ、カキ、アワビ、サザエ、そして佐渡のブリをはじめ多くの魚貝類。冬の名物寒ブリは脂がのって、刺身にシャブシャブに最高です。

自然、伝統芸能、食、文化、すべてがそろっている佐渡島は本当に素晴らしい佐渡アイランドです。私の大好きな島、佐渡。みなさん是非一度、佐渡にこいちゃ。みんな、佐渡を世界遺産にしましょう。